



複数ディスクの VM プロビジョニング

この章は、次の項で構成されています。

- [複数ディスクの VM プロビジョニングについて, 1 ページ](#)
- [複数ディスクの VM プロビジョニングの手順の概要, 2 ページ](#)
- [複数ディスクを含むテンプレートについて, 2 ページ](#)
- [ディスク カテゴリの割り当て, 2 ページ](#)
- [ストレージ ポリシーの定義, 3 ページ](#)
- [カタログの作成, 10 ページ](#)
- [VM ディスクの作成, 19 ページ](#)

複数ディスクの VM プロビジョニングについて

Cisco UCS Director では、テンプレートからの複数ディスクの仮想マシン (VM) プロビジョニングがサポートされています。選択した 1 つまたは複数のデータストアで VM ディスク プロビジョニングを設定できます。また、テンプレートでの追加ディスクごとに個別のディスク ポリシーを設定できます。

Cisco UCS Director では、ディスクは次のカテゴリに分類されています。

- システム
- データ
- データベース
- 切替
- ログ



(注) Cisco UCS Director で定義されているディスクのカテゴリは、ディスクのラベリング専用です。

複数ディスクの VM プロビジョニングの手順の概要

- ステップ 1 複数のディスクを使用している 1 つのテンプレートの可用性を検証します。
- ステップ 2 ディスクのカテゴリを割り当てます。
- ステップ 3 ストレージ ポリシーを定義します。
- ステップ 4 テンプレート カタログを作成します。

複数ディスクを含むテンプレートについて

複数ディスクの仮想マシン (VM) をプロビジョニングするには、複数のディスクを含むテンプレート (イメージ) が使用可能である必要があります。VM のプロビジョニングに複数のディスクを含むテンプレートを使用する前に、個々のディスクに対するディスク カテゴリを割り当てる必要があります。

ディスク カテゴリの割り当て

- ステップ 1 メニューバーで、[仮想 (Virtual)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
- ステップ 2 VMware クラウドを選択し、[イメージ (Images)] タブを選択します。
- ステップ 3 複数ディスクを含むテンプレートを選択します。
- ステップ 4 ツールバーで、[詳細の表示 (View Details)] ボタンをクリックします。
- ステップ 5 [ディスク (Disks)] タブをクリックします。
- ステップ 6 ディスクを選択します。
- ステップ 7 [ディスクタイプの割り当て (Assign Disk Type)] をクリックします。
- ステップ 8 ディスク タイプを選択します。
次のいずれかを設定できます。

- システム
- データ

- データベース
- 切替
- ログ

ステップ9 [送信 (Submit)] をクリックします。

ストレージポリシーの定義

ストレージポリシーは、データストアの範囲、使用するストレージの種類、容量、遅延の最小条件といったリソースを定義します。このポリシーを使用すると、複数のディスクに対して追加のディスクポリシーを設定することや、サービスリクエストの作成中にエンドユーザがデータストアを選択できるようにすることもできます。

Cisco UCS Director は、複数データストア上の複数ディスクでのVMのプロビジョニングをサポートしています。システム、データ、データベース、切替、およびログの5つのディスクタイプがあります。システムディスクポリシーは最初に設定され、他のディスクは必要に応じて後で設定されます。ディスクタイプ別にディスクポリシーを設定することも、デフォルトのシステムディスクポリシーを選択することも可能です。

追加のディスクのポリシーを使用する場合は、複数ディスクテンプレートに対してカタログを作成する際に、[単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングします (Provision all disks in a single datastore)] オプションを必ずオフにしてください。カタログの作成方法の詳細については、[カタログの追加](#)、(10ページ) を参照してください。

また、Cisco UCS Director は、VMプロビジョニングに対するサービスリクエストの作成中のデータストアの選択をサポートしています。この機能は、エンドユーザのデータストアの選択を有効または無効にするオプションを提供します。サービスリクエストの作成時にVDCを指定した際に、ストレージポリシーで定義されている範囲条件により、どの選択されたデータストアを表示するかを判別します。

ストレージポリシーの作成

- ステップ1 メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [仮想/ハイパーバイザポリシー (Virtual/Hypervisor Policies)] > [ストレージ (Storage)] を選択します。
- ステップ2 [VMwareストレージポリシー (VMware Storage Policy)] タブを選択します。
- ステップ3 [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ4 [ストレージリソース割り当てポリシーの追加 (Add Storage Resource Allocation Policy)] の [システムディスクポリシー (System Disk Policy)] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[ポリシー名 (Policy Name)] フィールド	リソース割り当てが発生するクラウドを選択します。
[ポリシーの説明 (Policy Description)] フィールド	<p>ポリシーの説明。</p> <p>導入の範囲を限定する場合は、すべてのデータストア、選択したデータストアのみ、もしくは、選択した以外のデータストアを導入するのかが選択されます。</p>
[クラウド名 (Cloud Name)] ドロップダウン リスト	<p>このリソース割り当てを行うためのクラウドアカウントを選択します。</p> <p>SRM のアカウントを選択した場合、[保護の有効化 (Enable Protection)] チェック ボックスが表示されます。Site Recovery Manager 用の保護グループを有効にする方法の詳細については、『Cisco UCS Director VMware Management Guide [英語]』を参照してください。</p>
システム ディスク スコープ	
[リンク済み複製の使用 (Use Linked Clone)] チェック ボックス	<p>リンクの複製を使用するには、チェック ボックスをオンにします。</p> <p>このチェック ボックスをオンにしない場合、構成はフル複製を使用します。</p>
[ストレージプロファイル (Storage Profile)] ドロップダウン リスト	関連付けられたストレージプロファイルの 1 つ以上の VM をプロビジョニングするには、ストレージプロファイルを選択します。

名前	説明
<p>[データストア/データストア クラスタ範囲 (Data Stores/Data Store Clusters Scope)] ドロップダウンリスト</p>	<p>導入の範囲を定義するには、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべて (All) • 選択したデータストアを含む • 選択したデータストアを除外 • 選択したデータストア クラスタを含む • 選択したデータストア クラスタを除外 <p>どのオプションを選択するかによって、追加のフィールドが表示される場合があります。</p> <p>(注) 選択したオプションにより、VM ディスクの作成時にすべてのデータストアまたはデータストア クラスタのどちらを使用できるかが決まります。</p>
<p>[選択済みのデータストア (Selected Data Stores)] フィールド</p>	<p>[選択済みのデータストアを含める (Include Selected Datastore)] または [選択済みのデータストアを除外する (Exclude Selected Datastore)] を選択する場合、[選択 (Select)] をクリックし、適切なデータストアを選択します。</p>
<p>[共有データストアのみの使用 (Use Shared Data Store Only)] チェック ボックス</p>	<p>共有データストアのみを使用するには、このチェック ボックスをクリックします。</p> <p>このオプションは、選択したデータストアを含むか除外するかを選択した場合のみ使用可能です。</p>
<p>[選択済みデータストア クラスタ (Selected Datastore Clusters)] フィールド</p>	<p>[選択済みのデータストア クラスタを含める (Include Selected Datastore Clusters)] または [選択済みのデータストア クラスタを除外する (Exclude Selected Datastore Clusters)] を選択する場合、[選択 (Select)] をクリックし、適切なデータストア クラスタを選択します。</p>

名前	説明
[SDRS ルールタイプの選択 (SDRS Rule Type)] ドロップダウンリスト	<p>選択したデータストアを含むか除外するかを選択した場合、次のいずれかの SDRS ルールタイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [VMDK を同時に管理する (Keep VMDKs Together)] : フィルタリングされたクラスタで既存のルールを選択する必要があります。新しくプロビジョニングされた VM は VM のアンチアフィニティルールに追加されます。 • [VMDK を分ける (Separate VMDKs)] : 新しくプロビジョニングされた VM に複数のディスクが含まれている場合、新しい VM アフィニティルールはデータストア クラスタで作成されます。
[SDRS ルールの選択 (Select SDRS Rule)] フィールド	[VMDK を同時に管理する (Keep VMDKs Together)] を選択した場合、ルールを適応したい VM を選択する必要があります。
ストレージオプション	
[ローカルストレージの使用 (Use Local Storage)] チェック ボックス	デフォルトでは、このフィールドはオンです。ローカルストレージを使用しない場合は、このチェック ボックスをオフにします。
[NFSの使用 (Use NFS)] チェック ボックス	デフォルトでは、このフィールドはオンです。NFS ストレージを使用しない場合は、チェック ボックスをオフにします。
[VMFS の使用 (Use VMFS)] チェック ボックス	デフォルトでは、このフィールドはオンです。VMFS ストレージを使用しない場合は、チェック ボックスをオフにします。
[SANの使用 (Use SAN)] チェック ボックス	デフォルトでは、このフィールドはオンです。SAN ストレージを使用しない場合は、チェック ボックスをオフにします。

名前	説明
[フィルタ条件 (Filter Conditions)] チェック ボックス	1つ以上の条件をデータストアフィルタに追加したい場合、次の各要求条件を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • 該当するチェックボックスをクリックします。 • ドロップダウン リストから必要なオプションを選択します。 • どのデータストア フィルタを実行する条件を入力します。 これらの条件を満たしていないデータストアは検討から除外されます。複数の条件を選択する場合、すべての条件が一致する必要があります。
[テンプレートのオーバーライド (Override Template)] チェック ボックス	テンプレートのプロパティをオーバーライドするには、このチェック ボックスをオンにします。シンプロビジョニングの使用やカスタム ディスク サイズの設定など、カスタム設定を入力するオプションが提供されます。
[シンプロビジョニングの使用 (Use Thin Provisioning)] チェック ボックス	VMストレージのプロビジョニングの際にシンプロビジョニングを使用するには、このチェック ボックスをオンにします。 シンプロビジョニングは、物理ストレージ容量の動的割り当てをイネーブルにし、VMストレージの使用率が向上します。 このオプションは、[テンプレートのオーバーライド (Override Template)]を選択した場合にのみ表示されます。
[手動ディスクサイズ (Manual Disk Size)]	カスタム ディスク サイズは、VM のプロビジョニングに使用されるテンプレートのディスク サイズをオーバーライドします。 このオプションは、[テンプレートのオーバーライド (Override Template)]を選択した場合にのみ表示されます。
VM ライフサイクルのサイズ変更オプション	
[ディスクのサイズ変更を許可 (Allow Resizing of Disk)] チェック ボックス	プロビジョニングする前に、VMのディスクサイズを選択するオプションをエンド ユーザに表示する場合はチェック ボックスをオンにします。

名前	説明
[ディスクの許容値(GB単位) (Permitted Values for Disk in GB)]フィールド	VMのプロビジョニング中に選択したディスクサイズ値のカスタム範囲を指定します。たとえば、1、5、10、50、100、500、1024、5120、10240 などです。 このオプションは、[ディスク サイズの変更許可 (Allow Resizing of Disk)]を選択した場合にのみ表示されます。
[スコープからのデータストアの選択をユーザに許可します (Allow user to select datastores from scope)]チェック ボックス	このチェックボックスをオンにすると、エンドユーザはサービス リクエストの作成中にデータストアを選択できるようになります。

ステップ 5 [次へ (Next)]をクリックします。

ステップ 6 [追加ディスク ポリシー (Additional Disk Policies)]ペインで、次のいずれかを実行します。

- システム ディスク ポリシーにおいてディスク タイプに同じディスク ポリシーを設定したくない場合、設定したいディスク タイプを選択します。
- すべてのディスクの種類にシステム ディスク ポリシー オプションを使用するには、[次へ (Next)]をクリックします。

(注) デフォルトでは、ディスクのディスクポリシーは、[ストレージリソース割り当てポリシーの追加 (Add Storage Resource Allocation Policy)]ペインで設定したシステムディスクポリシーと同じです。

ステップ 7 特定のディスク タイプのカスタムシステムディスクポリシーを設定した場合は、次の操作を実行します。

- a) ディスク タイプを編集するには、[編集 (Edit)] (鉛筆) をクリックします。
- b) [ポリシー項目の編集 (Edit Policies Entry)]ダイアログボックスで、[システムディスクポリシーと同じ (Same as System Disk Policy)]チェックボックスをオフにします。
- c) [エントリの編集 (Edit Entry)]ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。
ここに表示されるすべてのフィールドが [ストレージリソース割り当てポリシーの追加 (Add Storage Resource Allocation Policy)]ペインに表示されるフィールドと同じです。

(注) この設定は、VM ディスクの作成時にどのデータストアがディスクのタイプに使用できるかを決定します。

- d) [送信 (Submit)]をクリックします。
- e) 他のディスクタイプを設定するには、必要に応じてこれらの手順を繰り返します。

(注) その他のディスクポリシーで作成されたストレージポリシーを使用するには、VM のプロビジョニングに使用される VDC とポリシーを関連付けます。

ステップ 8 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 9 [ハードディスク ポリシー (Hard Disk Policy)] ペインでは、VM のプロビジョニング時に作成する物理ディスクの数を指定できます。

a) [+] をクリックして、ディスクを追加し、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[ディスクラベル (Disk Label)] フィールド	追加するディスクを説明するラベル。
[ディスク サイズ (GB) (Disk Size (GB))] フィールド	ディスクのサイズ。
[ディスク タイプ (Disk Type)] ドロップダウンリスト	ディスク タイプを選択します。 このドロップダウンリストに表示されるオプションは、[システムポリシーと同様 (Same as System Policy)] チェックボックスを先の手順で選択したかによって異なります。
コントローラ オプション	
[コントローラ タイプ (Controller Type)] ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストから、コントローラ タイプを選択します。 ポートの応答可能性に基づいて、コントローラは、VM ディスクにマッピングされます。
[新しいコントローラのディスクを作成 (Create Disk on new Controller)] チェックボックス	新しいコントローラを作成する場合に、このチェックボックスをオンにします。 コントローラ タイプは、[コントローラ タイプ (Controller Type)] ドロップダウンリストで作成された選択肢に基づいています。
ディスク プロビジョニング オプション	
[ディスク プロビジョニング オプション (Disk Provisioning Options)] ラジオ ボタン	指定したいプロビジョニングのラジオ ボタンをチェックします。次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • [シン プロビジョニング (Thin Provision)] • [シック プロビジョニング (Lazy Zeroed) (Thick Provision Lazy Zeroed)] • [シック プロビジョニング (eager Zeroed) (Thick Provision eager Zeroed)]
VM ライフサイクルのサイズ変更オプション	

フィールド	説明
[ディスクのサイズ変更を許可 (Allow Resizing of Disk)] チェック ボックス	このチェック ボックスをオンにすると、プロビジョニングする前に、VM ディスク サイズを選択できるようになります。
[ディスクの許容値(GB単位) (Permitted Values for Disk in GB)] フィールド	このオプションは、[ディスクのサイズ変更を許可] がオンの場合に表示されます。 VM のプロビジョニング中に選択したディスク サイズ値のカスタム範囲を指定します。たとえば、1、5、10、50、100、500、1024、5120、10240 などです。
[スコープからのデータストアの選択をユーザに許可します (Allow user to select datastore from scope)] チェック ボックス	このチェック ボックスをオンにすると、ユーザはサービスリクエストの作成中にデータストアを選択できるようになります。

ステップ 10 [送信 (Submit)] をクリックします。

(注) 追加ディスク ポリシーを使用して作成されるストレージ ポリシーを使用するには、VM のプロビジョニングに使用される VDC とポリシーを関連付ける必要があります。

設定された追加ディスク ポリシーをポリシーで使用する場合は、複数ディスク テンプレートのカタログ作成中に、[単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングします (Provision all disks in a single database)] チェック ボックスを必ずオフにしてください。カタログの作成方法の詳細については、[カタログの管理](#)を参照してください。

カタログの作成

カタログの追加

ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー (Policies)][カタログ (Catalogs)] > の順に選択します。

ステップ 2 [カタログ (Catalog)] タブを選択します。

ステップ 3 [追加 (Add)] (+) をクリックします。

ステップ 4 [カタログの追加 (Catalog Add)] ダイアログ ボックスで、追加するカタログ タイプを選択します。次のいずれかを設定できます。

- [標準 (Standard)] : クラウドリストにあるイメージを使用して VM プロビジョニングのためのカタログを作成する場合に使用します。
- [詳細 (Advanced)] : カタログ項目などのオーケストレーションワークフローを公開する場合に使用します。
- [サービス コンテナ (Service Container)] : カタログ項目としてアプリケーション コンテナを公開する場合に使用します。
- [ベア メタル カタログ (Bare Metal Catalog)] : ベア メタル サーバのプロビジョニングのためのカタログを作成するために使用します。

UCSD 管理者のみ : ベア メタル カタログを作成する方法については、[ベア メタル サーバ カタログの作成](#)を参照してください。

ステップ 5 [送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 6 [カタログの作成 (Create Catalog)] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[基本情報 (Basic Information)] ペイン	
[カタログ名 (Catalog Name)] フィールド	カタログの名前を入力します。 (注) 一度作成されたカタログ名は変更できません。
[カタログの説明 (Catalog Description)] フィールド	カタログの説明を入力します。
[カタログ タイプ (Catalog Type)] ドロップダウン リスト	カタログのタイプ。次のいずれかを設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • [標準 (Standard)] : クラウドリストにあるイメージを使用して VM プロビジョニングのためのカタログを作成する場合に使用します。 • [詳細 (Advanced)] : カタログ項目などのオーケストレーションワークフローを公開する場合に使用します。 • [サービス コンテナ (Service Container)] : カタログ項目としてアプリケーション コンテナを公開する場合に使用します。 • [ベア メタル カタログ (Bare Metal Catalog)] : ベア メタル サーバのプロビジョニングのためのカタログを作成するために使用します。

名前	説明
[カタログアイコン (Catalog Icon)] ドロップダウンリスト	このカタログに関連付けるイメージのアイコンをリストから選択します。このアイコンは、このカタログを使用してサービス リクエストを作成するときに表示されます。
[すべてのグループに適用 (Applied to all groups)] チェック ボックス	すべてのグループがこのカタログを使用できるようにするには、このチェック ボックスをオンにします。他のグループの使用を拒否するには、このチェック ボックスをオフのままにします。
[サポートの問い合わせ先の電子メールアドレス (Support Contact Email Address)] フィールド	サポート担当者の電子メールアドレスを指定します。
[選択されたグループ (Selected Groups)] チェック ボックス リスト	[選択した項目 (Select Items)] ダイアログ ボックスに含まれているグループのチェック ボックスをオンにします。オンにしたグループは、新しい VM をプロビジョニングするときにこのカタログを使用します。
[エンドユーザへ公開 (Publish to end users)] チェック ボックス	デフォルトでは、このチェック ボックスはオンになっています。このカタログがエンドユーザに表示されないようにするには、このチェック ボックスをオフにします。このチェック ボックスをオフにしない場合、このカタログはシステムのエンドユーザに表示されます。
[クラウド名 (Cloud Name)] ドロップダウン リスト	VM プロビジョニング用のイメージがあるクラウドを選択します。
[ISO マウント用の新しい VM のプロビジョニング (Provision new VM for ISO mounting)] チェック ボックス	選択されたイメージから新しい VM を複製するには、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにしない場合、空の VM が作成されます。

名前	説明
[イメージ (Image)] フィールド	<p>このカタログを使用して VM をプロビジョニングするときに使用するイメージのタイプ (イメージを構成する Windows ファイル、Linux ファイル、およびその他のファイルなどの既存のテンプレート) を選択します。</p> <p>グループ管理者である場合や、カタログを作成する権限のあるグループのエンドユーザである場合は、属しているグループに割り当てられたイメージがこのフィールドに表示されます。</p> <p>自身が MSP 管理者である場合は、属している MSP 組織のイメージと、MSP 組織内のグループに割り当てられたイメージがこのフィールドに表示されます。</p>
[Windows ライセンスプール (Windows License Pool)] フィールド	<p>Windows ライセンスを選択します。</p> <p>(注) このオプションは、Windows イメージが選択されて場合にのみ表示されます。このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。</p>
[単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニング (Provision all disks in single datastore)] チェックボックス	<p>単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングするには、このチェック ボックスをオンにします。ストレージ ポリシーで各ディスクに対して設定されているデータストアを使用することも選択できます。</p> <p>複数ディスク ストレージ ポリシーの作成の詳細については、ポリシーの管理 を参照してください。</p> <p>(注) このオプションは、選択されたテンプレートに複数のディスクがある場合に表示されます。このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。</p>
[サービス コンテナ テンプレート名 (Service Container Template Name)] ドロップダウン リスト	<p>リストからテンプレートを選択します。</p> <p>(注) このオプションは、カタログ タイプがサービス コンテナである場合に表示されます。</p>

名前	説明
[フォルダの選択 (Select Folder)] ドロップダウンリスト	<p>このカタログの作成先となるフォルダを選択します。</p> <p>(注) ドロップダウンリストには、デフォルトで使用可能なフォルダの名前が含まれます。利用可能なフォルダを選択するか、+ アイコンをクリックして新しいフォルダを作成します。</p> <p>新しいフォルダを作成するためには、[新しいフォルダの追加 (Add New Folder)] ダイアログ ボックスで、フォルダ名を指定し、そのフォルダのアイコンを選択します。</p>

ステップ 7 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 8 [アプリケーションの詳細 (Applications Details)] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[カテゴリ (Category)] ドロップダウンリスト	VDC カテゴリを選択します。
[オーバーライド (Override)] チェック ボックス	サービス リクエストを使用した VM のプロビジョニング時に、選択したカテゴリをエンドユーザーがオーバーライドできるようにするには、このチェック ボックスをオンにします。
[サポートの問い合わせ先の電子メールアドレス (Support Contact Email Address)] フィールド	このカタログ項目を使用してサービス リクエストが作成されたときに通知が送信される問い合わせ先の電子メールアドレス。
[OSの指定 (Specify OS)] ドロップダウンリスト	<p>VM のプロビジョニング時に、VM にインストールされる OS のタイプを選択します。</p> <p>(注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。</p>
[他のOSの指定 (Specify Other OS)] フィールド	<p>[OS の指定 (Specify OS)] リストにない OS を指定します。</p> <p>(注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。</p>

名前	説明
[アプリケーションの指定 (Specify Applications)] チェック ボックス リスト	[項目の選択 (Select Items)] ダイアログ ボックスでアプリケーションを指定するための適切なチェックボックスをオンにします。これらのアプリケーションはプロビジョニング中に VM にインストールされます。 (注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。
[他のアプリケーションの指定 (Specify Other Applications)] フィールド	[項目の選択 (Select Items)] ダイアログ ボックスにないその他のアプリケーションを指定します。 (注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。
[アプリケーションコード (Application Code)] フィールド	VM 名に使用するアプリケーションコードを指定します。 アプリケーションコードは 1 ~ 4 文字です (例: W2K3、DB、WS)。VM 名のシステム ポリシーでアプリケーションコードを使用するには、変数 <code> \${APPCODE} </code> を使用します。 たとえば VM 名のテンプレートが <code> vm-\${GROUP_NAME}-\${APPCODE} </code> の場合、システム ポリシーを使用してプロビジョニングされた VM の名前は <code> vm-groupname-W2K3 </code> になります。 (注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。

ステップ 9 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 10 [ユーザクレデンシャル (User Credentials)] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

(注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。

名前	説明
[クレデンシャル オプション (Credential Options)] ドロップダウン リスト	ユーザに対し、VM アクセス クレデンシャル (共有) の取得を許可するか、または禁止するかを選択します。
[ユーザ ID (User ID)] フィールド	ユーザ ID。 (注) このフィールドは、[クレデンシャル オプション (Credential Options)] で選択されているときだけ使用できます。

名前	説明
[パスワード (Password)] フィールド	ユーザのパスワード。 (注) このフィールドは、[クレデンシャルオプション (Credential Options)] で選択されているときだけ使用できます。

ステップ 11 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 12 [カスタマイズ (Customization)] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[自動ゲストカスタマイズの有効化 (Automatic Guest Customization Enable)] チェック ボックス	自動ゲストカスタマイズを有効にするには、チェック ボックスをオンにします。 このチェック ボックスをオンにしない場合、Cisco UCS Director では DNS、ネットワーク、およびゲスト OS プロパティが設定されません。
[プロビジョニング後のカスタム アクション (Post Provisioning Custom Actions)] チェック ボックス	VM のプロビジョニング後にオーケストレーション ワークフローを有効にするには、このチェック ボックスをオンにします。
[ワークフロー (Workflow)] ドロップダウン リスト	プロビジョニング用に定義されたワークフローを選択します。 (注) このオプションは、[プロビジョニング後のカスタム アクション (Post Provisioning Custom Actions)] がオンの場合に表示されます。
[仮想ストレージカタログの有効化 (Virtual Storage Catalog Enable)] チェック ボックス	仮想ストレージカタログからストレージ エンティティを選択するには、チェック ボックスをオンにします。
[仮想ストレージカタログ (Virtual Storage Catalog)] ドロップダウン リスト	カタログからストレージ エントリを選択します。 (注) このオプションは、[仮想ストレージカタログの有効化 (Virtual Storage Catalog Enable)] チェック ボックスをオンにすると表示されます。
コスト計算	
[請求期間 (Charge Duration)] ドロップダウン リスト	[毎時 (Hourly)] または [毎月 (Monthly)] を選択します。

名前	説明
[アクティブな VM アプリケーションコスト (Active VM Application Cost)] フィールド	テンプレートに含まれているアプリケーション コスト。 (注) RHEVKVM コネクタではサポートされていません。
[非アクティブな VM アプリケーションコスト (Inactive VM Application Cost)] フィールド	時間あたりまたは月あたりに、非アクティブな VM のカタログにかかるコスト。 (注) RHEVKVM コネクタではサポートされていません。
VM ライフサイクル設定	
[リース時間 (Lease Time)] チェック ボックス	リース時間 (日、時間) を定義するには、チェック ボックスをオンにします。
[日 (Day)] フィールド	日数を指定します。 このフィールドは、[リース タイム (Lease Time)] チェック ボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[時間 (Hours)] フィールド	時間数を指定します。 このフィールドは、[リース タイム (Lease Time)] チェック ボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[エンドユーザのリース設定を非表示 (Hide end user lease configuration)] チェック ボックス	サービス エンドユーザによる VM のリース時間の設定を防止するには、チェック ボックスをオンにします。
[VM のプロビジョニング後のエンドユーザを非表示 (Hide end user VM provision later)] チェック ボックス	サービス エンドユーザによる VM のプロビジョニング以降の設定を防止するには、チェック ボックスをオンにします。

ステップ 13 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 14 [VM アクセス (VM Access)] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
Web アクセス設定	

名前	説明
[有効 (Enable)] チェック ボックス	VM への Web アクセスを有効にするには、このチェック ボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェック ボックスはオフになっており、Web からの VM へのアクセスは無効になっています。
[URL] フィールド	VM の URL。 (注) このオプションは、[Webアクセス設定 (Web Access Configuration)] がオンの場合に表示されます。
[ラベル (Label)] フィールド	この URL に定義されたラベル (注) このオプションは、[Webアクセス設定 (Web Access Configuration)] がオンの場合に表示されます。
リモートデスクトップのアクセス設定	
[有効 (Enable)] チェック ボックス	VM へのリモートアクセスを有効にするには、このチェック ボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェック ボックスはオフになっており、リモート デスクトップからの VM へのアクセスは無効になっています。
[サーバ (Server)] フィールド	サーバのリモート アクセス用 IP アドレス。 (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定 (Remote Desktop Access Configuration)] がオンの場合に表示されます。
[ポート (Port)] フィールド	サーバのリモート アクセス用ポート番号。 (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定 (Remote Desktop Access Configuration)] がオンの場合に表示されます。
[ラベル (Label)] フィールド	このリモート アクセス用に定義されたラベル (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定 (Remote Desktop Access Configuration)] がオンの場合に表示されます。
VMRC コンソールの設定	

名前	説明
[有効 (Enable)] チェック ボックス	VMRC コンソールが VM にアクセスできるようにするには、このチェック ボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェック ボックスはオフになっており、VMRC コンソールからの VM へのアクセスは無効になっています。

ステップ 15 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 16 [サマリー (Summary)] ページのカタログ情報を確認します。

ステップ 17 [送信 (Submit)] をクリックします。

VM ディスクの作成

プロビジョニングされるか、検出された VM のカスタムサイズの追加ディスクを追加できます。
[VM] アクション ボタンから使用可能な [VM ディスクの作成 (Create VM disk)] オプションを使用します。

ステップ 1 メニュー バーで、[仮想 (Virtual)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。

ステップ 2 ナビゲーションのペインで、クラウドの名前を選択します。

ステップ 3 [VM] タブを選択します。

ステップ 4 VM を選択します。

ステップ 5 ツールバーの右側にある矢印ボタンをクリックし、[VM ディスクの作成 (Create VM Disk)] ドロップダウン リストを選択します。

ステップ 6 [VM ディスクの作成 (Create VM Disk)] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[VM 名 (VM Name)] フィールド	VM の名前。 一度入力すると、VM の名前は編集できません。
[新しいディスクサイズ(GB) (New Disk Size (GB))] フィールド	VM のディスク サイズ (GB 単位) 。

名前	説明
[ディスクタイプの選択 (Select Disk Type)] ドロップダウンリスト	<p>ディスク タイプを選択します。次のいずれかを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • システム • 切替 • データ • データベース • ログ
[データストア/データストア クラスタの選択 (Select Datastore/Datastore Cluster)] ドロップダウンリスト	<p>VMのディスクがデータストアまたはデータストア クラスタから作成されている場合に指定します。</p>
[データストアの選択 (Select Datastore)] フィールド	<p>[選択 (Select)] をクリックして、VM ディスクの作成に使用するデータストアを選択します。</p> <p>(注) 使用可能なデータストアはVDCに関連付けられたストレージポリシーによって異なります。ストレージポリシーで指定された条件に合ったデータストアのみ VM ディスクに使用できます。</p> <p>このフィールドは、VMのディスクをデータストアから作成するように指定している場合にのみ使用できます。</p>
[データストア クラスタの選択 (Select Datastore Cluster)] フィールド	<p>[選択 (Select)] をクリックして、VM ディスクの作成に使用するデータストア クラスタを選択します。</p> <p>(注) 使用可能なデータストア クラスタはVDCに関連付けられたストレージポリシーによって異なります。ストレージポリシーで指定された条件に合ったデータストア クラスタのみ VM ディスクに使用できます。</p> <p>このフィールドは、VMのディスクをデータストア クラスタから作成するように指定している場合にのみ使用できます。</p>

名前	説明
[Thin プロビジョニング (Thin Provision)]チェックボックス	VMにシンプロビジョニングされたディスクを追加する場合に、このチェック ボックスをオンにします。 (注) シンプロビジョニングは、物理ストレージ容量の動的割り当てをイネーブルにし、VM ストレージの使用率が向上します。
[新規ディスクコストの計算 (Compute New Disk Cost)]フィールド	このオプションは、ダイアログ ボックスで指定および表示した情報に基づいて新しいディスクコストを計算します。

ステップ 7 [作成 (Create)]をクリックします。
